

# もし車を運転中に暴風雪に遭遇してしまったら...





1 運転中に暴風雪となり視界が悪くなったときは、そのまま運転を続けるのは大変危険なので...

- ! 道の駅、コンビニなどで天気の回復を待つ
- ! 気象情報や道路情報を確認する

2 途中で立ち往生をしてしまったときは、後続車から追突されないように...

- ! ハザードランプを点滅、停止表示板を置く
- ! JAFなどのロードサービス、近くの商店や人家などに救助を求める
- ! 避難できる場所や救助を求められる人家が近くに無いときは、警察・消防に連絡して救助を求める

3 車内で救助を待つときは、排気ガスによる一酸化炭素中毒や低体温症に十分注意が必要なので...

<p><b>! 原則エンジン停止</b></p> <p>一酸化炭素中毒の危険をなくすにはエンジンを切ることが大切です。防寒着や毛布、新聞紙などで体温の低下を防ぎましょう。</p> 	<p><b>! 一酸化炭素中毒の危険性</b></p> <p>車が雪に埋もれたときにエンジンをかけ続けると排気ガスによる一酸化炭素中毒の危険性が生じます。埋もれる深さが深いほど危険です。</p> 
<p><b>! エンジンをかけるときは</b></p> <p>防寒などでやむを得ずエンジンをかけるときには、排気管出口を確実に大気へ開放し、追加の降雪や吹きだまりによる再埋没に注意しましょう。</p> 	<p><b>! 窓を開けていても絶対安全とは言えません</b></p> <p>風向や窓の開度などの条件によっては、窓を開けていても閉めているときより一酸化炭素中毒の危険性が高くなることもあります。</p> 

## 日常から暴風雪に備えましょう!

### ★ 家で安全に過ごすために

- 気象情報に注意して、暴風雪が予想されているときは外出を避けましょう。
- 停電に備えて、懐中電灯、携帯ラジオ、防寒具、ポータブルストーブや灯油、非常食、飲料水などを準備しておきましょう。
- FF式暖房機などを使用している場合は、給排気口付近が雪でふさがれないよう注意しましょう。



### ★ やむを得ず車で外出するときは

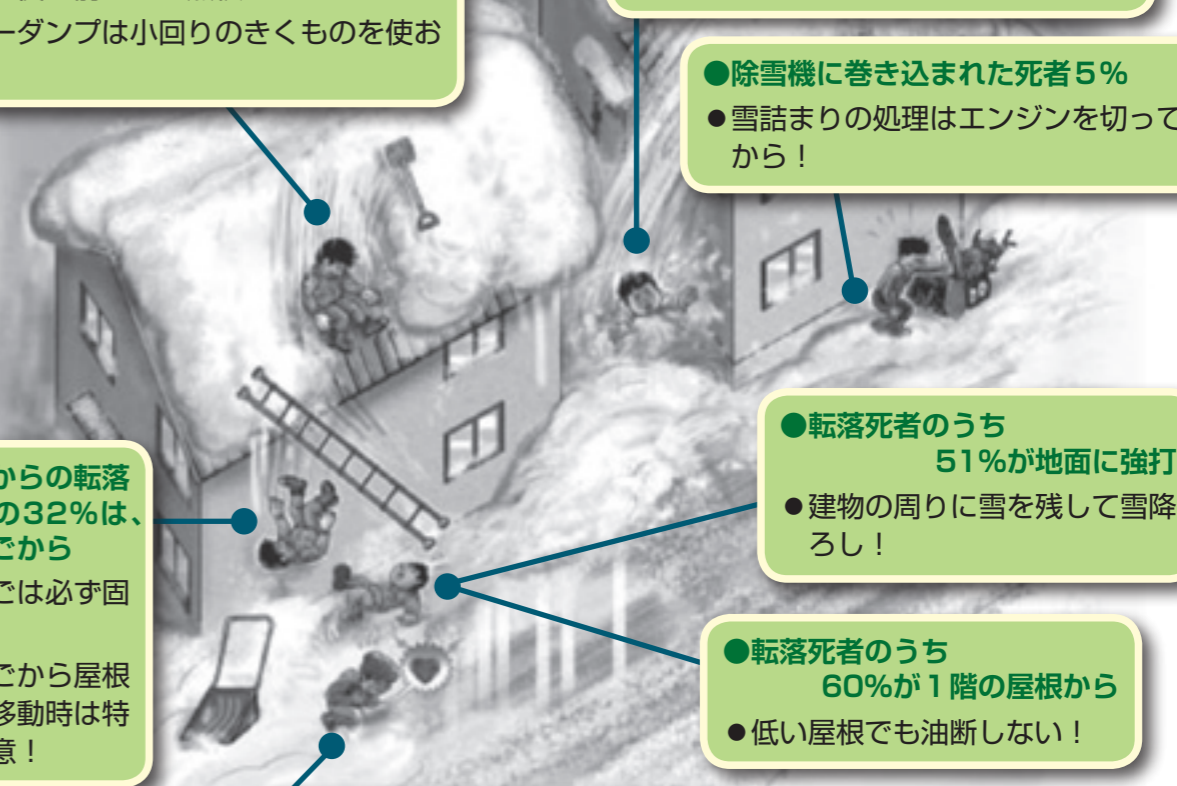
- 天気の急変などにより車が立ち往生することを想定して、防寒着、長靴、手袋、スコップ、けん引ロープなどを車に用意するとともに、十分に燃料があることを確認しましょう。



# 屋根の雪下ろしによる事故の防止

屋根の雪下ろしによる事故が全道的に多発しています。

冬期における道内の人的被害 ○平成24年度：死者33人、負傷者482人  
(消防庁調べ) ○平成25年度：死者17人、負傷者378人



- 屋根からの転落による死者41%
  - 安全带・命綱とヘルメット、すべりにくい靴（厚底は避ける）を着用しよう！命綱は使う前によく点検！
  - スノーダンプは小回りのきくものを使おう！
- 屋根からの落雪による死者17%
  - 新雪や晴れの日は雪のゆるみに注意！
  - 携帯電話を持って！
  - 家族、隣近所に声を掛けてから！
- 除雪機に巻き込まれた死者5%
  - 雪詰まりの処理はエンジンを切ってから！
- 屋根からの転落事故の32%は、はしごから
  - はしごは必ず固定！
  - はしごから屋根への移動時は特に注意！
- 転落死者のうち51%が地面に強打
  - 建物の周りに雪を残して雪降ろし！
- 転落死者のうち60%が1階の屋根から
  - 低い屋根でも油断しない！
- 除雪作業中の発作による死者8%
  - 疲労時は作業しない！

## 命を守る除雪中の事故防止10箇条

- ① 作業は家族、隣近所にも声かけて2人以上で！
- ② 建物の周りに雪を残して雪下ろし！
- ③ 晴れの日ほど要注意。屋根の雪がゆるんでる！
- ④ はしごの固定を忘れずに！
- ⑤ 除雪機の雪詰まりの取り除きはエンジンを切ってから！
- ⑥ 低い屋根でも油断は禁物！
- ⑦ 作業開始直後と疲れたころは特に慎重に！
- ⑧ 面倒でも命綱とヘルメットを！
- ⑨ 命綱、除雪機など用具はこまめに手入れ・点検を！
- ⑩ 作業のときには携帯電話を持っていく！